

イースター礼拝で開いたマルコの福音書の復活の記事では主イエス様の姿はありませんでした。しかしその後、主は弟子たちの前に現れました。

1. 復活された主による恵み（：36～43）

弟子たちは一つの家に集まり、戸に鍵をかけた中にいました。ある者は興奮してイエス様が復活したことを話し、別の者はそんなことがあるのだろうか疑問を持っていたでしょう。そのような弟子たちの真ん中にイエス様が立たれました。

36 節。「平安があなたがたにあるように」とは単なる挨拶である以上に、この時の弟子たちに必要な「平安」を主イエスが与えようとしておられたのだと思います。人々を恐れて閉じこもっていた弟子たち、イエス様の復活を証言する仲間の話を聞いても戸惑っていた弟子たちにとって、主が与えてくださる平安が何よりも必要でした。よみがえられて生きておられる主イエスが共にいてくださることによる平安が必要でした。

また、この出来事には主イエスの臨在の恵みを教えられます。復活された主イエスとの出会いについて語り、その恵みを分かち合っている中に、イエス様が共にいてくださったのです。「二人か三人がわたしの名において集まっているところには、わたしもその中にいるのです」（マタイ 18:20）と約束されたイエス様は、今も主の恵みを分かち合う交わりの中に一緒にいてくださいます。主の臨在によって平安を与えられるのです。

それでも、この時の弟子たちはイエス様の姿を見て恐れしました。無理ありません。十字架で死んだはずのイエス様が目の前に立っているのです。38～39 節。弟子たちはイエス様のからだを見ることができました。また、弟子たちはイエス様の声を聞くことができました。そして、弟子たちはイエス様のからだに触ることができました。視覚、聴覚、触覚によって、イエス様がそこにおられることが分かりました。確かにイエス様はからだをもってよみがえられたのです。そして、イエス様が弟子たちに見せたその手と足には十字架に打ちつけられた釘の傷跡がありました。十字架で死なれたイエス様が確かに復活したのです。

それでも「弟子たちが喜びのあまりまだ信じられず、不思議がっていたので」、イエス様は「ここに何か食べ物がありますか」とおっしゃいました。確かにからだがあることを弟子たちに分からせようとしたのです。焼いた魚を一切れ差し上げると、イエス様はそれを召し上がりました。弟子たちの心に喜びがあふれたことでしょう。主イエスはからだをもって復活されました。弟子たちはそのことの証人です。イエス・キリストの十字架と復活は歴史の中の事実なのです。

それゆえにキリストの復活は信じる者に復活の希望を与えます。「キリストは、万物をご自分に従わせることさえできる御力によって、私たちの卑しいからだを、ご自分の栄光に輝くからだと同じ姿に変えてくださいます」（ピリピ 3:21）。からだをもって復活されたイエス・キリストは、死にも勝利された御力によって、キリスト者たちのからだを天の御国にふさわしい栄光のからだに変えてくださいます。その復活と御国の希望を与えられるのです。

2. キリストによる救い（：44～49）

イエス様はさらに弟子たちに語り、ご自身がキリスト、救い主であることを教え、彼らを信仰に導きます。44 節。キリストのことが旧約聖書全体を通して様々な形で示されており、それらはすべてイエス様において成就したのです。

ルカは重要なことを伝えています。それは、イエス様がご自分のことを聖書によって説き明かされたことです。神のみことばによって私たちはイエス・キリストを知り、真理を悟るように導かれるのです。

45～47 節。キリストの死とよみがえりが神の救いの計画を成就するために必要だったことが強調されています。そして、救いが人に与えられるには、「その名によって、罪の赦しを得させる悔い改めが」必要です。すなわち、人が自分の罪を認め、悔い改めて神に立ち返り、イエス様の十字架とよみがえりによって罪を赦され、新しいいのちに生かされることを信じて受け取るなら、その人は救われます。その人は心を開いて聖書を悟ることができます。単なる知的な理解ではなく、神と自分との関係として受けとめるときに、救いがその人に与えられるのです。

そのためにイエス様は弟子たちの心を開きました。また、私たちの心も開いてくださいます。神は私たちに聖書のみことばと聖霊の働きによって救い主イエス様のことを教えてくださり、自分の救い主として受け入れるようにと促してくださるのです。

さらにイエス様は言われました。「エルサレムから開始して、あなたがたは、これらのことの証人となります」。弟子たちが救い主イエス様を信じて救われて、それで終わりではありません。与えられた救いについて宣べ伝える証人となるようにイエス様は弟子たちに使命を与えます。そして、弟子たちが証人として、使命を果たすことができるように、イエス様は力を与えると約束しました。49 節。

父である神が約束されたものとは聖霊なる神のことです。「わたしが父にお願いすると、父はもう一人の助け主をお与えくださり、その助け主がいつまでも、あなたがたとともにいるようにして下さいます。この方は真理の御霊です」(ヨハネ 14:16-17a)。弟子たちは自分の乏しい力でキリストの証人となろうとすべきではなく、助け主、聖霊が与えられるのを待ち望むべきでした。ですから、「いと高き所から」すなわち神から、「力を着せられるまでは、都にとどまっていなさい」というのです。このことは、この福音書を書いたルカが使徒の働き之初めに記録していること、ペンテコステの日の出来事によって弟子たちに成就しました。それ以来、「あらゆる国の人々に宣べ伝えられる」という神の計画と約束は教会によって進められてきました。

聖書に、「人は心に信じて義と認められ、口で告白して救われるのです」(ローマ 10:10) とあるように、心に受け入れたことをことばで告白することが大切です。そのように信じる決心をすることも聖霊が助けてくださるのです。決心して、告白することができるように、神は私たちの心を開いて、聖霊を与えてくださるのです。

今、神が皆さん一人ひとりの心を開いてくださいますように。そして、それぞれが聖書を悟ることができ、イエス・キリストを信じて受け入れることができるように、救いを受け取ることができるように、そしてその決心を告白することができるように祈り求めます。

3. 弟子たちの変化 (: 50~53)

49 節と 50 節の間には、何も書かれていませんが、40 日が経過していました(使徒 1 : 3)。その間には、主イエス様が弟子たちに現れたことが何度もありました。そうして、主イエス様はご自分が生きていることを弟子たちに明らかにされました。しかし、弟子たちと一緒にいたのではなく、弟子たちの前に現れ、また見えなくなるということでした。

よみがえられてから 40 日後、主イエス様は再び弟子たちの前に現れ、彼らをベタニヤの近くまで連れて行きました。ベタニヤはエルサレムの近くのオリーブ山の中腹にありました。その山で主イエス様は弟子たちが見ている前で天に上げられました。51 節。

これ以降、弟子たちは主イエス様を見ることができなくなりました。主イエス様が昇天したということは、これまでの地上でのわざを終えたということです。本来の神のあり方に戻られたということなのです。

主イエス様の昇天を見届けた弟子たちには、以前の状態から大きな変化がありました。52~53 節。彼らはその場で主イエス様を礼拝しました。また、恐れや不安ではなく、イエス様にもう会えないという悲しみではなく、「大きな喜び」が与えられていました。

復活から昇天までの 40 日間に、弟子たちのイエス様についての理解は大きく変化しました。十字架と復活を通し、また主が聖書から説き明かして下さったことにより、彼らの理解は深まり、信仰が与えられました。救い主イエス様を知り、信じて、救いをいただいた弟子たちの喜びは大きく、彼らは主イエス様を礼拝し、いつも神をほめたたえていました。

弟子たちに起こったこの変化は、私たちがイエス・キリストを信じるなら、同じように与えられます。クリスチャンたちは大きな喜びと共に、主イエス様を礼拝し、神をほめたたえて生きることができるのです。

主イエス様はかつて弟子たちになさったように、今も私たちにもしてください。私たちの心を開き、聖書を悟らせてくださって、ご自身が救い主であることを信じさせてください。

救い主イエス様は神の御子ですが、人となられ、私たちの罪を代わりに負って十字架で死なれました。そして、三日目によみがえり、今も生きておられます。目には見えませんが、私たちの真ん中に立ち、平安を与え、信仰を与えてくださいます。

自分にはイエス様による救いが必要であることを認めて、イエス様を自分の罪からの救い主として心に受け入れましょう。そして、その信仰を口で告白しましょう。その時にあなたは救われて、大きな喜びとともに主イエス様を礼拝し、神を賛美して、生きていくことができるのです。